

“令和からのエコチル調査”と“3つのC”

エコチル調査福島ユニットセンター
センター長 橋本 浩一

平成23年1月から開始されたエコチル調査は今年で10年目に入りました。福島県では5歳から8歳の12,202人（対出生数94.8%、令和2年3月末）のエコチルキッズが参加しています。改めまして、参加されているお子さん、保護者の方々、そして関係の皆さまに感謝申し上げます。

令和元年からは、年2回の質問票調査に加え、小学2年生全員を対象とした対面調査の学童期検査、そして6歳の5%のお子さんにご協力いただき医療機関で実施している詳細調査（医学的検査）が進められています。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面で実施する詳細調査、学童期検査は令和2年3月から中止しています。さらに、本年度計画していた、秋ごろまでの“ふれあい会”や“コンサート”などのイベントも延期や中止としました。一方で、7月1日現在、全国15ユニットセンターの各地域では、新型コロナウイルス感染の流行状況を注意深く評価し、感染拡大への対策を十分にしたうえで対面調査再開が検討されています。福島ユニットセンターでも県内各地域の状況を把握し準備を進めています。

現在5歳から8歳の年齢で実施されている本調査は、子どもの成長とともに生活が変化し、それに合わせて一段と調査実施方法の変化が求められます。そうした状況の変化に合わせて様々な取組をしてきました。“調査参加者の生活変化に合わせた実施体制”としては、詳細調査の医学的検査において県内各地域約20か所の個人医院のご協力を追加し、平日の夕方、土曜日にも検査可能な体制としました。さらに、“親子ふれあい会”として、令和元年度は、国立磐梯青少年交流の家、福島県文化財センター白河館（まほろん）、郡山市ふれあい科学館 スペースパークのご協力のもと、創作、野外活動に挑戦しました。さらに、広く環境について学ぶ「環境セミナー」を開催し、令和元年度は、国立環境研究所より講師をお迎えし、地球温暖化についてワークショップ形式で学びました。

調査、研究である本出生コホート調査の目的は、確かな事実を社会に還元することです。参加者の皆さまから集められた情報はまとめられ、約100通の論文として全世界に発信されています。当ユニットセンターを含めエコチル調査からの発表論文は本ホームページ、あるいは環境省のホームページからご覧いただけます。

令和に入り、スタッフに「福島ユニットセンターにおける3つの“C”」を提案しています。参加者、そして関係者の皆さまへも同じく提案いたします。**Colleague**（仲間・同僚）、**Challenge**（挑戦）、**Communication**（意思疎通・情報共有）です。成長する子ども達、様々な身の回りの変化、そして新型コロナウイルス感染症の中で、家族、友人とともに新たなことに挑み、コミュニケーションを大切にし、“新しい生活様式”で少しでも充実した生活を送りましょう。落ち着かない日々がしばらく続くと思いますが、エコチルキッズ、ご家族、関係者皆さまのご健康、そして1日も早く普通の日常が戻ってくるようお祈りします。

令和2年7月